

第17回深圳共同計測・試験設備展示会

日本・欧米・中国メーカーが最新技術・製品を発信



日本電計の中国法人・電計貿易は日刊工業新聞社と共催で、2017年10月26-27日の2日間、中国・深圳で「第17回 深圳共同計測・試験設備展示会」を開いた。華南地区（深圳、惠州、東莞、珠海、広州）に分散する開発区のコアな顧客の来場を見込んで、既存顧客の深耕、新規顧客の開拓、引き合いへとつなぐことを狙った。同国は「中国製造2025」を掲げ、経済発展著しい巨大市場だ。展示会は盛況で、328社1024人が来場した。

ごあいさつ



日本電計 柳丹峰 社長

「第17回 深圳共同計測・試験設備展示会」の出展社をはじめ、来場者、関係者のみなさまに感謝申し上げます。現在、中国国内で当社がターゲットとする顧客は約20万社あり、自動車市場は世界の約3割を中国企業が占めていると言われております。また、半導体市場、情報インフラ市場と同国の経済は好況下にあるなか、当社は計測機器及び試験装置の商社として、当展示会は顧客の開拓を図る目的で開きました。新たな縁が生まれる場となり、日本・中国の両国にとって有益な契機になることを願っております。

得意分野で巨大市場に照準

56社のブースがひしひしと出展。実機はめいた展示会場。取り扱う得意分野もさまざま。製品は分りやすい説明に力を注いだ。

若林秀彰営業部長は同社ブースにやってくる来場者層について「実験・品質保証に携わっている来場者が多い」と分析。同社の振動試験機はモーターやインバーターなど小型部品から自動車などの大型部品まで取り扱えることが強み。製品の安全輸送や大型電子機器の人工衛星、防衛システムなどに活用されている。また、振動・衝撃環境に引き起こされる疲労による亀裂・破損や接触部の摩耗、ネジ・ボルトのゆるみといった事故を未然に防ぐために、同装置は製品の設計・実験、検査の段階で振動試験や複合環境試験評価に利用されている。

高精度測定 エヌエフ回路設計（横浜市港北区、高橋常夫社長）のブースには来場者の人だかりができていた。同社は自動車・デジタル家電などの先端エレクトロニクス、ナノテクノロジー、環境エネルギー、人工衛星やロボット、人工衛星やロボットとといった宇宙関連まで、幅広い分野を取り扱う。同社は増幅回路において、ノイズ耐性や周波数特性など精度、信頼性などがある「ネガティブフィードバック」制御技術を活用した事業を展開しており、社名の由来にもなっている。

高い耐久性 エミック（東京都品川区、高見哲夫社長）は、振動測定器・振動環境試験機の製造販売と受託試験業務を展開している。今回、1.5tの加振力と高い耐久性を備えた「振動試験機装置 Fシリ・インダクタ」といった製品を展示。品質管理などに用いる「指示計器 LCRメーター ZM2376」を展示した。同製品は最高測定周波数5.5MHzと広帯域に対応する抵抗・コンデンサー試験機装置 Fシリ・インダクタといった製品を展示。品質管理などに用いる「指示計器 LCRメーター ZM2376」を展示した。同製品は最高測定周波数5.5MHzと広帯域に対応する抵抗・コンデンサー試験機装置 Fシリ・インダクタといった製品を展示。

日本の最新技術・製品が一堂に



製品・技術動向などを紹介するセミナー

C測定を現場で行える。少量のサンプルガスを機器に挿入後、簡単に短時間で分析結果が得られ、ガス分析の時間を短縮。自動車、石油産業、電子・精密機器製造業など化学物質を使う幅広い業種に採用されている。また、労働安全衛生業界向けに、可燃性ガス・酸素・一酸化炭素・硫化水素を同時表示する小型・ポータブルタイプの「マルチ型ガス検知器 XA44」を中心に各種ガス検知器を紹介した。

日系企業開拓

初参加のブースでは、東京理化学機器（東京都文京区、千野英賢社長）が目立った。1955年に設立した科学研究機器の専門メーカー。取り扱った製品のほとんどは自社開発による自社生産品で、日本国内の主力生産は宮城工場で行っている。上海で開拓されるものづくり商談会に出展したのがある同社だが、電計貿易の商談会参加は初めて。今回の出展は、在中国日系企業の開拓がねらいだ。中国では上海に中国国内向け、日本および海外向け汎用製品の生産工場を展開している。また、北京、上海、広州、成都、西安の5拠点に事務所を置いている。同社の主力取引先の業種は医薬品・化粧品・食品が多く、今回同展示会に出展した「冷却水循環装置」の売り上げの半分は以上は産業用だ。同社の展示ブースにはほとんどは「VOCセンター」に展示した。VOCは揮発性有機化合物（VOC）の略で、分析計をVOCに置いていたカテゴリーはほとんどは「VOCセンター」に展示した。VOCは揮発性有機化合物（VOC）の略で、分析計をVOCに置いていたカテゴリーはほとんどは「VOCセンター」に展示した。

中国産業界の発展に寄与

素早い検知 安立計器（東京都目黒区、仙北屋正恒社長）も注目だ。同社は表面温度計を主力とするメーカー。強みは高精度・高耐久性に加え、素早い検知の三点検出機能。静止表面用・移動回転表面用・内部用・多目的・特殊用途など多種多様な温度センサーを用意し、顧客のニーズに沿った選定が可能。

分析時間短縮 新コスモス電機のグループ企業である新考（上海）は、中国市場向けの揮発性有機化合物（VOC）検知器、分析計をVOCに置いていたカテゴリーはほとんどは「VOCセンター」に展示した。VOCは揮発性有機化合物（VOC）の略で、分析計をVOCに置いていたカテゴリーはほとんどは「VOCセンター」に展示した。

今回の展示会に同社製品は1万種類以上の温度センサーに対応する「ハンディタイプ温度計」が展示された。VOCは揮発性有機化合物（VOC）の略で、分析計をVOCに置いていたカテゴリーはほとんどは「VOCセンター」に展示した。VOCは揮発性有機化合物（VOC）の略で、分析計をVOCに置いていたカテゴリーはほとんどは「VOCセンター」に展示した。

セリックは太陽光専門メーカーだ。自然太陽光に極めて近い自然光を照射する照明を提案。自動車・電機業界が急速に発展する中国市場で、人工太陽照明「SOLA-X」や疑似太陽光照射装置を製造・販売している。当社製品は日本国内で車体の塗装色確認やキズ・打痕・ムラ確認の目視検査用光源として多くの自動車メーカーに採用されている。デザイン分野では新車のデザイン検討用に使用されており、自動車デザイン・色彩が屋外でどう見えるかを試作段階から確認可能だ。また、カーエレクトロニクス分野にも当社の製品が採用され、LEDAR（ライダ）やADAS（自動運転向けセンサー）の開発・精度向上などの用途も広がっている。



須藤 祐介氏

セリック 営業部

極められた太陽光に近い自然光を照射する照明を提供

非移動計測 小野測器 営業本部商品統括フロックセミアナ・統括グループマネージャー 小平圭一氏。非移動計測は、非接触で物体の移動速度や長さを計測できる。これにより、製品の形状やロールの寸法を高精度に計測できる。フィルムやフィルムを均一に厚くする工程で、フィルムに非接触で計測する必要がある場合、非接触計測が有効だ。LV7000はレーザー安全クラス2適合であり、保護メガネを必要としない。この課題に対しLV7000は、2本のレーザーを交差させた時に生じる光の明暗を利用した計測が可能だ。



小平 圭一氏

小野測器はレーザー（干渉縞）を利用して面内速度計「LV7000」を紹介する。製造現場において質の高い製品を提供し続けることは重要な課題だ。例えば、液晶用フィルムを均一に厚くする工程で、フィルムに非接触で計測する必要がある場合、非接触計測が有効だ。LV7000はレーザー安全クラス2適合であり、保護メガネを必要としない。この課題に対しLV7000は、2本のレーザーを交差させた時に生じる光の明暗を利用した計測が可能だ。

SYCATUS 代表取締役 四方誠氏。レーザの雑音評価で光通信システムの発展に貢献。近年の光通信システムの雑音低減の要求が高まっている。通信容量の増大に伴う雑音帯域の拡大に伴い、雑音帯域の増大がその一因だが、高度な変調方式の導入により、従来の強度雑音だけでは不足している。レーザの強度雑音を抑制する必要がある。レーザの強度雑音を抑制する必要がある。レーザの強度雑音を抑制する必要がある。



四方 誠氏

絶縁状態を測るため「MP7」は絶縁抵抗計を用いるが、測定のために停電させる必要がある。最近では停電で済む。絶縁抵抗を測定する際に、DCで0.01A程度の電流を流す。MP7は絶縁抵抗計を用いるが、測定のために停電させる必要がある。最近では停電で済む。絶縁抵抗を測定する際に、DCで0.01A程度の電流を流す。MP7は絶縁抵抗計を用いるが、測定のために停電させる必要がある。最近では停電で済む。絶縁抵抗を測定する際に、DCで0.01A程度の電流を流す。

マルチ計測器 常務取締役営業部長 上神谷健一氏。停電せずに絶縁管理が可能。絶縁状態を測るため「MP7」は絶縁抵抗計を用いるが、測定のために停電させる必要がある。最近では停電で済む。絶縁抵抗を測定する際に、DCで0.01A程度の電流を流す。MP7は絶縁抵抗計を用いるが、測定のために停電させる必要がある。最近では停電で済む。絶縁抵抗を測定する際に、DCで0.01A程度の電流を流す。



上神谷 健一氏